

○事業所名	ばるぶる一む		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 10日		～ 令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 10日		～ 令和6年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画や日頃の支援内容など利用児童保護者との共有がはかられている。	全職員が、あった事を保護者に伝えるという高い意識を持つ事業所風土づくりに注力している。またモニタリングについても「保護者との共有をはかる意義のある時間とする」という事を念頭に全保護者と面談している。	より明確な支援プログラムの確立や個々に合わせた形にて実施する支援内容を更に明細化をはかる事で、より分かりやすく利用児童について保護者と共有できるような取組を強化したい
2	利用児童にとって、過ごしやすい居場所となっている。	全職員が利用児童の状態や気持ちなど、見た事、感じた事を話として出しやすい環境づくりに注力しており、毎日の支援前の打ち合わせにて活かすことが出来ている。	利用児童の個々のニーズなど更に深掘りすることで、より過ごしやすい、更に意欲を持って様々な事にチャレンジ出来る環境づくりを強化して行きたい。
3	作業療法士による専門的プログラムを導入している。	作業療法士を配置しており、日々のグループ別学習にて作業療法を取り入れている。また月に一度、運動療法の時間を取り入れている。定期的に「作業療法だより」も発行し、親子で取り組める内容を盛り込んでいる。	作業療法士にはモニタリングに同席した上で立案した専門的支援実施計画書を説明している。計画書は個別支援計画とリンクする内容としている。更に充実化させて、利用児童の成長を促すという結果を残せるようにして行きたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会及び明確なペアレントトレーニングの機会を作る事が出来ない。	個々での相談やアドバイスなどは常に実施しているが、明確な形での提供は出来ないのが現状である。日頃の利用児童への支援やプログラム内容の構築に注力している事で、職員の業務負担を更に広げてしまう事に対して躊躇している面もある。	保護者アンケートにて「保護者会等は必要ない」という声も何名かから出ている。実施する内容を入念に考えつつも、まずは実施するという事で動いて行きたい。
2	地域の他の児童との交流する明確な機会を作る事が出来ない。	上段の保護者会等実施の課題や要因と重なる所である。地域で開催されている子ども食堂へは地域交流として定期的に利用児童をお連れしボランティアの方などの交流をはかっているが、学童など定型発達児童との交流は様々な観点から躊躇している面がある。	この項目の実施についても保護者の方からは賛否両論という実情もあります。よく検討しながら、まずは実施してみるといった方向で動いて行きたい。
3			